

令和元年6月27日現在

機関番号：32677

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04251

研究課題名(和文) 多文化共生をめざす教師教育カリキュラムの開発に関する理論的・実践的研究

研究課題名(英文) Theoretical & Empirical Study of Curriculum Development of Multicultural Teacher Education

研究代表者

金井 香里 (KANAI, KAORI)

武蔵大学・人文学部・教授

研究者番号：20722838

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、多文化共生のための教師教育カリキュラムを開発するための理論的検討と実践的検証を行った。おもに米国で展開された多文化教師教育、日本における反差別教育の理論と実践を検討することを通じて、多文化共生のための教師教育カリキュラムをデザインする上での理論的枠組みを構築した。その上で、カリキュラムを編成し実践し、受講者である教員や教員志望学生に対し、一定の教育的効果を与えた。さらに、実践したカリキュラムは、受講生によるフィードバックをもとに高度化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、これまでほとんど着手されていなかった多文化共生のための教師教育に着目し、教員志望学生(または現職教員)を対象とする多文化共生のためのカリキュラムを編成し実践するための理論的視座を提示するとともに、カリキュラムの実践的検証を行い高度化した。これによって、教職を志望する学生や教師に対し、多文化共生社会の実現に向けて一定の教育的効果を与えることができた。さらに一連の研究を通じて、多文化共生社会の実現のためには学校における教師のあり方と教師教育が重要であることを主張したことで、学校教育ならびに教師教育をめぐる議論の発展に対し大きく寄与した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research is to develop curriculum of multicultural teacher education for in-service and would-be teachers in Japan. Based on the analysis of theoretical as well as empirical studies of multicultural teacher education in the U.S. and anti-racism education in Japan, a theoretical framework for designing the curriculum was presented. Furthermore, the curriculum was organized and put into practice in classes and teacher training programs in schools. The teacher feedback was utilized so as to improve the curriculum in quality.

The whole study emphasized the persons who assume the leading roles for multicultural society is none other than school teachers and that educating in-service and would-be teachers for that purpose is fairly important, which made a great impact on the discussions of school education and teacher education in the academic community.

研究分野：教育学

キーワード：多文化 共生 教師教育 カリキュラム開発 多文化教師教育 教員研修 多様性

1. 研究開始当初の背景

グローバル化が加速し、人、モノ、情報、カネなどが国境を越えて自由に行き来するようになるのに従い、日本では多文化共生を求める声がかかれるようになった。多文化共生という言葉は、1990年代以降、地方自治体や市民運動の関係者などによって用いられるようになり、現在は政府レベルでも言及されている。さらに、多文化共生に含まれる文化、共生という概念をめぐる批判的分析も含め、哲学、教育学、社会学などの立場から議論が展開されている。しかし文化、共生、多文化共生という概念をめぐる議論が一定程度展開されつつある一方で、多文化共生のための教育実践のあり方については、まだ十分に検討されているとは言い難い。さらに言えば、子どもたちを対象とした多文化共生のための教育は、少しずつ議論され実践事例が報告されつつあるものの、多文化共生の社会を担う子どもたちを育てる立場にある教師に対する教育については、研究開始時点でほとんど着手されていない。本研究の背景にあるのは、多文化化する日本社会の現状に鑑み、多文化共生社会の実現に向けた教師教育（教員養成、教員研修）カリキュラムを開発し普及・啓発を図り、教師の資質と力量の向上に寄与するという課題である。

2. 研究の目的

本研究では、多文化共生のための教師教育カリキュラムを開発するための理論的検討と実践的検証を行った。具体的な研究の目的として、以下の3点を掲げた。第一に、日本における多文化共生の概念および教育実践に関する先行研究を検討するとともに、米国の多文化教師教育(multicultural teacher education)等、海外のアプローチの理論と実践事例を整理検討し、日本の教師教育カリキュラムへの示唆、利用可能な教育内容と教育方法を検討することである。第二に、日本の教育現場の現状やニーズに対応した多文化共生のための教師教育カリキュラムを開発することである。第三に、開発した教師教育カリキュラムの普及と啓発を図り、教師の資質と力量の向上に寄与することである。

3. 研究の方法

(1)研究活動の基盤づくりとしての理論研究、(2)カリキュラムの開発、(3)カリキュラムの実践的検証の三つからなる。(1)では、日本と海外の文献にあたり、多文化共生を目指す教師教育カリキュラムの開発に有効な理論と諸概念、教育方法と実践事例を整理する。(2)では、日本のフィールド(大学教職課程、小・中学校)で教員志望学生または現職教員を対象に実施するカリキュラムを、フィールドでの調査を通じて把握した現状やニーズを踏まえつつ、開発する。(3)では、開発したカリキュラムを実践するとともに、カリキュラム受講者より質問紙または面談を通じて評価を収集し、こうしたフィードバックをカリキュラムの再構築に生かす。(1)に続いて、(2)と(3)を往還的に行い、必要に応じて(1)にも立ち戻ることとした。

4. 研究成果

本研究の成果は、以下3点である。

(1) 多文化共生のための教師教育カリキュラム(大学での授業、小・中学校での教員研修)をデザインする上での理論的な枠組みを構築した点である。米国で蓄積されてきた多文化教師教育の研究や日本で展開された反差別のための教育の実践を検討することを通じて、多文化教師教育のカリキュラムをデザインするにあたっては、受講者に対して多文化共生に取り組む主体的行為者としての自覚を促すとともに、教師ならびに子どもについての適正な認識を促すことが重要であることを示唆した。そのうえで、カリキュラムの柱として、教育実践における子どもたちの多様性に対するスタンスの形成、社会的公正に対するスタンスの形成、知識、教えるという行為、学びについての構成主義的基盤(方法論)の採用の三つを盛り込む必要があることを指摘した。さらに、教師が多文化共生に取り組む主体的行為者としてあるためには、省察する力、批判的に思考する力が必要であり、これらの力を育成することが重要であることを強調した(図1参照)。

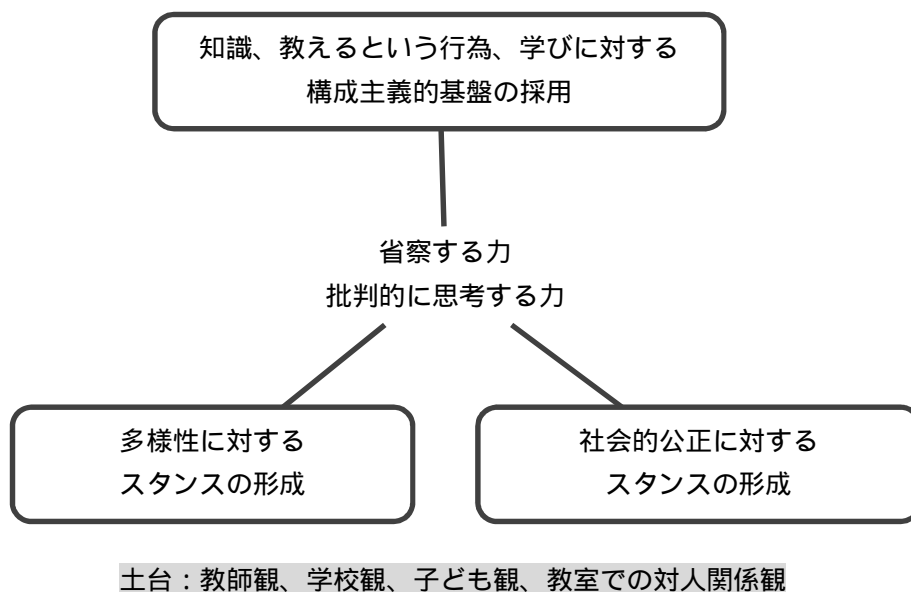


図1 カリキュラムをデザインするための理論的枠組み

(2) 多文化共生のための教師教育カリキュラムを開発し、デザインしたカリキュラムを実践し、受講者である現職教員(または教員志望学生)に対し、一定の教育的効果を与えた点である。さらに、実践したカリキュラムは、受講者によるフィードバック(授業評価および質問紙調査、面談など)をもとにその有効性を再度検証し、高度化した点である。

(3) 一連の研究を通じて、グローバル時代において求められる教師像を構想するとともに、多文化共生のための教師教育カリキュラムを通じて教員や教員志望学生が習得するよう目指すべき能力を整理し提示した点である。グローバル時代に求められる教師像(教師の役割)や、教師

が身に付けるべき多様な能力(基本的認知能力のみならず、高次の認知能力や人格特性なども含む)を提示したことによって、多文化共生社会の実現にあたっては学校という空間で子どもたちの教育を担う教師が重要な役割を担うことを強調するとともに、多文化共生のための教師教育の重要性を主張した。このことは、グローバル社会、多文化共生社会にふさわしい学校教育や教師教育のあり方をめぐる議論の発展に対して大きく寄与した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計7件)

金井香里「多様な文化的背景の子どもたちと中等教育実践の課題」日本教育方法学会『教育方法 48 中等教育の課題に教育方法学はどう取り組むか』(査読無)2019、印刷中

金井香里「実践のリフレクションを実践研究にどうつなげるか」日本学校教育学会『学校教育研究』第34号(査読無)2019、印刷中

金井香里「グローバル時代に求められる教師像」日本学校教育学会『学校教育研究』第33号、(査読無)2018、pp.8-21

金井香里「グローバル化する社会と教師 市民性を育てる教師教育カリキュラムの理論的視座」武蔵大学総合研究所『武蔵大学総合研究所紀要』No.27、(査読無)2018、pp.19-28

金井香里「多様な文化的背景の子どもたちに対する教育に関する研究の動向と今後の課題」日本教育方法学会『教育方法 46 学習指導要領の改訂に関する教育方法学的検討』(査読無)2017、pp.151-162

金井香里「日本における反差別のための教育の展開と課題」武蔵大学教職課程『教職課程研究年報』第30号、(査読無)2017、pp.78-86

金井香里「多文化共生をめざす教師教育 米国における多文化教師教育研究からの示唆」武蔵大学教職課程『教職課程研究年報』第29号、(査読無)2016、pp.55-65

[学会発表](計6件)

Kanai, Kaori, "Reinstating the Diversity as a Medium for Rethinking Education and Teacher Education in Japan," in "Missing Rhetoric of Education in Japan: Dialogue on Rethinking Education and Teacher Education of Japan," (Refereed) The 10th Conference of World Education Research Association, University of Tokyo, Tokyo (Japan), August, 2019.

金井香里「実践のリフレクションを実践研究にどのようにつなげるか」日本学校教育学会第33回大会(於東京学芸大学、2018年8月5日)ラウンドテーブル「実践研究論文に挑戦しよう 自分の問題関心を実践研究として成立させるために」

金井香里「スタンダード化された教室における多様性への対応 教師はニューカマーの子どもに対応できるのか」日本教育方法学会第52回大会(於九州大学、2017年10月1日)課題研究「授業のスタンダード化を問う 子どもの多様性の視点から」

金井香里「多文化共生をめざす教師教育カリキュラムのデザイン 多様性と社会的正義に対するスタンスの形成という観点から 」異文化間教育学会第 38 回大会(於東北大学、2017 年 6 月 18 日)

金井香里「多文化共生のための教師教育カリキュラム 米国における多文化教師教育研究からの示唆 」日本カリキュラム学会第 27 回大会 (於香川大学、2016 年 7 月 3 日)

金井香里「多文化共生をめざす教師教育カリキュラムの開発 米国における多文化教師教育研究からの示唆 」日本教師教育学会第 25 回研究大会(於信州大学、2015 年 9 月 20 日)

〔図書〕(計 1 件)

金井香里、佐藤英二、岩田一正、高井良健一(共著) 『子どもと教師のためのカリキュラム論』 pp.1-294

6. 研究組織

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。